

令和4年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	学びのハイブリッド化を支援する小中連携プロジェクト
事業実施代表者名	校長 橋本 忠和
実施附属学校名	北海道教育大学附属函館小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>本事業は、小中連携による「主体的・対話的で深い学び」の研究に資するICT活用の実践・検証を図るものである。</p> <p>本年度も、函館小学校・函館中学校は、情報活用能力育成に焦点をあてた研究実践を行っており、函館小学校の本年度重点は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ICT活用授業等・プログラミング授業の研修会実施 (出前授業や地域各校の研修会にて) ② ICT活用・プログラミング授業カリキュラムの構築 ③ ICT活用授業の実践(カリキュラムの実践) ④ 情報モラル・情報安全教育の推進 <p>上記①～④それぞれの取組内容は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 知内町立知内小学校の視察研修をはじめ、地域各学校での研修会は10回ほど実施した。 ② 各学年における指導内容を明確化し、各教科の授業においてう身に付けるべき事項を再度見直し、整理した。 ③ 構築したカリキュラムを基に、学年発達に応じて「写真撮影」→「記録の整理・保存」→「説明・記録化」→「発表・表現」これに、ローマ字や英語の学習、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトの活用を組み合わせた指導の展開を図った。 ④ 警察や大学等の関係機関と連携した「スマートフォン等の安全教室」「SNS いじめ、情報安全教室」の開催し、学級指導や道徳、総合など機会を捉えて計画的・継続的に取組を進めた。GIGAスクール構想に伴って必要となる情報モラルや安全教育を保護者対象も視野に入れながら今後さらに充実していきたい。
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT活用授業、プログラミング授業の研修会を実施することができた。参加者からは「具体的な操作方法も知り、授業での活用ができる」と大変好評であった。研修会のニーズは高いので、今後さらに拡充したい。 ○ プログラミング教育のあり方について不安を抱いている公立学校が多く、本校の研究発信がプログラミング教育を身近に感じ、実際のあり方の提案が各校での実践化へつながっている。 ○ ICT機器を様々な学習機会でも活用できる可能性を広げることができた。これまでの積み重ね、学年のつながりがより強まっ

	<p>たことで、児童の学習成果がこれまで以上に高まっている。修学旅行報告会等での児童作成物に如実に表れている。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング教育実践についての授業公開や研修の場開設への期待は大きい。研究大会やセミナーだけでなく、本年度実施した研究交流及びICT活用・プログラミング教育に関連した研修機会を増やしたい。 ・ 本年度研究により、児童による「自己評価」「相互評価」へのICT活用が効果的であるという検証結果を得ることができた。 画像や動画等を評価対象とするだけでなく、授業内、場面毎の児童の思考過程や目的意識の変化など、ICT活用による評価のあり方について研究を進める。 ・ 情報モラル・情報安全教育に力を入れ、専門的人材を招聘した講演会を核に、保護者と連携し、年間を通した計画的な取組を継続する必要がある。
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業力向上セミナー (R5.2.10実施、HPでも同日公開) ・ 研究交流校における研修会の実施 (函館市立駒場小学校・中部小学校・北海道大野農業高等学校、七飯町立大中山小学校・知内町立湯ノ里小学校・涌元小学校・知内小学校、瀬棚町立瀬棚小学校) ・ 本校HPにて研究交流及び研修会実施についての広報掲示 (R5.6月より)

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳

(附属学校名 函館小学校)

区 分	予算額	支出実績額	内訳 (簡潔に記載すること)
旅 費	千円	千円	
謝 金			
備 品 費			
消耗品費	4 2 7	4 2 7	ノートパソコン (20 台)
そ の 他			